# 令和６年度　研究成果報告会・記念講演会報告

**－　全性連　野津有司理事長をお迎えして　－**

**東京都特別支援教育性教育研究会**
**会長　朝日　滋也**
（東京都立墨田特別支援学校校長）

## １　再開２年目の成果報告

私共の研究会は、第 50 回記念全国性教育研究大会が東京で開催されたことを契機に、全性連や東京都性教育研究会（都性研）の皆様に背中を押される形で、令和５年度から東京都における性教育の研究会活動を再開しています。

会としての歩みはまだ２年目ですが、全性連から光栄にも補助金をいただき、令和７年１月 18 日（土）に国立オリンピック記念青少年総合センターにて、研究成果報告会と野津有司理事長を講師としてお迎えした記念講演会を開催しました。50 名の参加がありました。

**【第一部】　研究成果報告**

①　思春期における身体の変化（二次性徴）に関する「学習指導案」の提案

②　よりよい人間関係の形成（対人関係）に関する実践報告

③　助言

東京都心身障害者福祉センター　山本良典

東京学芸大学附属特別支援学校　蓮香美園

二次性徴に関する学習指導案は、知的障害特別支援学校中学部１年生の生徒を対象に、学習指導要領を根拠に、小学校保健の教科書の教材を参考にして作成しました。蓮香美園先生からは「二次性徴は性教育の核になるもの。学習指導案のパッケージが完成すれば、障害の程度に応じて工夫ができる」と助言をいただきました。

助言される蓮香美園先生（右）と山本良典先生（右から２人目）。　左４名は報告者

対人関係については、東京都立羽村特別支援学校高等部の実践で、性と対人関係等、複雑なニーズのある生徒への支援として「学校版キープ・セーフ」プログラムに基づいた実践報告が、ロールプレイを交えてありました。山本良典先生からは、「子供中心の肯定的なプログラムを作って実践することによって、子供たちが自分自身を肯定的に受け止め、困っていることをちゃんと相談できるようになることを、学習できる実践」と助言をいただきました。

**【第二部】　記念講演**

「学校における性教育の在り方」

～日本型包括的性教育の視点から～

講師　全性連理事長　筑波大学名誉教授

野津　有司

野津先生は、世界各国の性教育制度との比較を通じて、日本型包括的性教育の特長、特に学習指導要領に基づく体系的な教育が実施されている点を説明されました。欧米の性教育への単純な憧れではなく、日本の教育制度の特性を踏まえた上で、適切な教材開発と指導方法の工夫が必要であると強調されました。

参加者からは、「日本の性教育は世界的にひどく遅れていると思っていたので、考えが改まるきっかけとなりました。実際はまだまだ指導しづらい環境でありますが、目の前の児童・生徒に必要な指導ができるよう努めていきたいと思いました。」「後半の LGBTQ+や SOGI の話についてもっとお話を聞きたかった」などの感想が寄せられ、参加者の学びが深まりました。

## ２　今後の課題

特別支援教育における性教育は、研究活動がしばらく停滞し、「課題は多いが、何をどう指導していいのか分からない」という声を聞きます。障害のある子供たちが、自分の性の発達と対人関係を肯定的に学び、「だれもがステキな大人になれる性教育」を研究、普及していきます。

# 模擬授業で体験的に性教育の進め方を学ぶ

東京都特別支援教育性教育研究会
会長　朝日　滋也
（都立墨田特別支援学校校長）

## 1. 活動の再開

今年度から、全国性教育研究団体連絡協議会に加盟させていただきました東京都特別支援教育性教育研究会です。よろしくお願いします。

東京都において、特別支援教育に関わる性教育の研究会はここ数年休止状態にありました。しかし、令和４年８月に、第 50 回記念全国性教育研究大会が東京で開催され、そこに関わった数名の特別支援学校や特別支援学級の教職員に対して、もう一度、研究会活動を再開してみないかと、全性連や東京都性教育研究会（都性研）の皆様に背中を押される形で、令和５年から活動を再開いたしました。

１年目は、先進事例に学ぶことから始め、日本障害児性教育研究会の山本良典先生（東京都心身障害者福祉センター）、蓮香美園先生（東京学芸大学附属特別支援学校）を助言者として迎え、障害のある子供たちが、社会に出たときに「ステキな大人になれるように」という視点から学ぶこととしました。特別支援学校等における性教育の進め方を学びたいという熱心な教職員が徐々に集まるようになり、会員は 31 名となり、年度末の研究成果報告会には 68 名の参加者に集まっていただきました。

## 2. 授業づくりを目指して

２年目となる今年度は、学校における授業づくりを具体的に学ぶこととし、５月 11 日に開催した第１回目の研究協議会では、蓮香美園先生から「性教育の授業づくり」の講話を伺った後で、参加者による模擬授業を体験しました。

今回の授業は次のような内容です。

テーマ：「大切な心と体をまもるために」
題材名：「変な人についていかない」
ねらい：知的障害のある生徒が自己防衛スキルを身に付けられるようにする。
展開：①「変な人」について話し合う。
②「大声で『いや』という」「逃げる」「報告する」の３つのスキルを、ロールプレイをしながら学ぶ。

取り上げた題材は、文部科学省の「生命の安全教育」とのつながりもあり取り上げやすい題材です。性教育の授業実践で「障壁」と言われる「保護者、教員間とのコンセンサス」も得られやすく、教育課程にも位置付けやすいです。

「いや」という・逃げる・報告をするというシンプルな活動ですが、学校での実際の授業では、「声も出ず、動けず」「声は出ないが何とか逃げる」「大声で拒否するが逃げない」など様々な反応があるそうです。中には構えすぎてしまって固まったり、どうすべきかは言えるけれど、ロールプレイに参加はしなかったりと、様々な反応があるそうです。

毎年１回、学年があがるたびに繰り返し学習する機会を確保し、一定期間空けて練習することで自己防衛スキルは確実に上がるそうです。家の人に「報告する」ことも、言語表現が十分でなくても何らかのサインで報告できるようにすれば、その生徒のもっているコミュニケーションの力で伝えることが可能になります。

講話のあと、参加者に模擬授業をやってもらいました。進行する教師（ＭＴ）と変な人役のＳＴ１、報告を受ける家族役のＳＴ２、そして様々な実態の生徒役５人です。生徒も声が出せる役から固まってしまう役まで演じてくれました。２組の模擬授業から多くの学びがあり、アンケートでは学校に戻って取り組んでみたいという声も多数ありました。生徒の様々な反応にも、教師役は活動を肯定的に認めて終わらせることが大事だと、気付いた研究会でした。

家族役の ST に、生徒役が報告する場面